
風姫のナイト

黒椿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風姫のナイト

【Zコード】

Z3485H

【作者名】

黒椿

【あらすじ】

シカテマセツナイモノガタリカゼヒメノナイトレンサイデス。

第1話「月の明かり」

俺は何があつても、砂の使者様を守らなければいけないんだ。

今は案内役という理由で…

けどいつか、俺はテマリ自身を守る存在になりたい…

風姫のナイト第1話 「月の明かり」

俺は今日も砂からの使者、テマリを木ノ葉の大門で待っている。

すると、しばらくしてテマリの姿が見えてきた。いつまでこの案内役に就いていられるのだろう…できればずっと、この先も就いていたい。

あいつに会いたいから…

そんなことを考えているとテマリの声がした。

「おい、シカマル、なにぼーつとしてるんだ?」

「あ、わらい。」

目の前に首を傾げたテマリの姿があった。

そして、二人並んで木ノ葉の街を見ながら火影邸へ行く。

いつも通りの会話を交わしながら。

「何時に迎えにくればいい?」

「んー…一時間後ぐらじに頼む

「分かった

そして、俺はテマリと分かると街中をうきうきしていた。
するといのとサクラに会つた。

「シカマルーーーーあんたこんな所で何してんのよ?」

「俺は今任務中だぜ…案内役のな。」

「案内役かあ…テマリさんは?」

「よくテマリの案内役つて分かつたな…

半分呆れ氣味に俺は呟いた。

「テマリを迎えて行くまでにまだ時間があんだよ。だから暇つぶしだ。」

「ふうーん。」

「お前ひじか何やってんだよ?」

「あたしたちはあー今話題のお店に行く所なのー。シカマルも早く彼女つべつデートでも連れていってあげたらどうなのよ?」

「シカマルもつて…お前らも彼氏いねえだろ」

「ひめこわねー。」

「するとテマリとの待ちあわせ時間をすぎていることに気が付いた。

「あー…やべえ…!…待つけさせ時間過ぎちゃった…。俺行く

俺はとにかく走った。

あいつが居る所へ。

しかし、テマリの姿が…ない。

まさか、俺を探しに行つたのか…
いや、そんなわけがない。

もしかしたら自分で宿へ帰ったのかもしれない。

そうだとすると、あいつはもうそこまで怒っている…とびだしが。

それに、あいつの身に何かあるといけない。
おれはまた走りだした。

「…テマリー!…

テマリを見つけた。

振り返つたあいつの顔は予想に反して、寂しげな顔だった。

「…シカマル…」

「わいこ。いのと話していたら…」

おれはそこだハツとして口をとじた。
最低じゃないか…俺は…。

言い訳までしてしまはなんて…。

「そつ…か。あたしはもつこから一人でも帰れるから…もういいよ。」

何でそんな泣き声うな顔するんだよ…

「…その、ホントに悪かった。悪気は無かつたんだ」

また言い訳をしてしまった - -

「いいよ…気にしないから…」

どつかうどつかみでもそつは見えないじゃないか。

「じゃあ、なんで一人で帰るとか言つ出すんだよ。」

「いいだろ?…別に。」

そつ言つてあいつは俺に背を向け歩き出した。
その背中はホントに切なげで…

小さくて…

頼りなくて…

それなのに俺は黙つてただ立ち止まっていた。
これ以上あいつを傷つけたくないから。

帰り道…月の明かりが今日は一段と
明るかつた。

月が俺を照らして…

余計に悲しくなつてくれる。

ああ、なんで月は…
こんなに切ないんだ…

- - - - -
シカマル視点、風姫のナイト第1話は完成です^ ^

ほんと意味不でごめんなさい。

次回はこの続きでテマリ視点の風姫のナイト第2話の予定です。

誤字修正しました（遅

死者つて…（どんなミスだよ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3485h/>

風姫のナイト

2010年10月8日22時05分発行